

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970200125		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム山梨小原西		
所在地	山梨県山梨市小原西641-7		
自己評価作成日	平成23年10月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成23年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流活動(掃除隊や散歩時の地域のお宅への訪問・地域資源を活用した外出支援) ご入居者様のアクティビティ(外出支援・日々のレクリエーション・散歩) 食事内容(形態の工夫やバランスの取れた食事メニュー) ご家族様との関係作り(運営推進会議・ご家族参加のイベント・毎月のお便り)

事業所は県内の同系列の施設と協力して独自の「ケアする姿勢」を作成して支援にあたり、地域との連携と個々の生活を大事にする事を重点的に取り組み、地域交流が確実に定着していると思われる。3月の震災後は在宅の人達の緊急時一時避難所として、施設を利用したいとの提案があり、将来は地域に貢献出来る施設として考えている。職員は目線を低くして利用者のケアにあたり、自らもさまざまな課題に取り組み、ステップアップのための研修に積極的に参加している。利用者は日常的な外出や地域の人々との関わりの中で穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名 愛の家グループホーム山梨小原西

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(太陽)	ユニット名(虹)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼という機会をつくり、その中で会社全体としての運営理念の唱和や、各事業所単位での理念の共有をし、一日一日新たな気持ちでスタートできるように取り組んでいる。また各ユニット単位でも運営理念に基づいた目標やビジョンを立て取り組んでいる。	毎朝朝礼という機会をつくり、その中で会社全体としての運営理念の唱和や、各事業所単位での理念の共有をし、一日一日新たな気持ちでスタートできるように取り組んでいる。また各ユニット単位でも運営理念に基づいた目標やビジョンを立て取り組んでいる。	毎朝管理者、事務職員、早晩の職員とで会社の理念、事業所の理念を唱和している。その後フロアごとに唱和して一日を新たな気持ちでスタートしている。地域との連携と個々の生活を大事にする事の理念を意識して実践に繋げている。	
		利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎朝ご入居者様と一緒にホームの庭から周辺道路の清掃を約30分行い、地域の方々や挨拶を交わしている。また散歩時には積極的に職員からの挨拶などの交流をし、現在では2件お宅に散歩の途中の休憩所として立ち寄らせていただいています。	毎朝ご入居者様と一緒にホームの庭から周辺道路の清掃を約30分行い、地域の方々や挨拶を交わしている。また散歩時には積極的に職員からの挨拶などの交流をし、現在では2件お宅に散歩の途中の休憩所として立ち寄らせていただいています。	敷地内外の掃除、地域行事「運動会、夏祭り、御神輿」への参加、ボランティア活動「民謡、フラダンス、太鼓、三味線」の見学、地域の人達が気軽に立ち寄り、お休み所を設けたり、確実に地域との交流が深まっている。交流は利用者、職員共に良い刺激になっていると感じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと協力し、認知症よろず相談窓口として、認知症にお困りの方の相談所となっている。	地域包括支援センターと協力し、認知症よろず相談窓口として、認知症にお困りの方の相談所となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	上記にも記載した散歩の途中で休める場所作りには区長様に協力を依頼し、現在実行させていただいている。またプランター菜園や節電対策・風邪の予防などの意見をいただき実行している。	上記にも記載した散歩の途中で休める場所作りには区長様に協力を依頼し、現在実行させていただいている。またプランター菜園や節電対策・風邪の予防などの意見をいただき実行している。	前回の評価の課題を実践している。会議では事業報告やボランティアを紹介してもらったり、意見、提案を受け話し合っている。地域の民生委員に来てもらい、施設見学と勉強会を行い、理解を深めてもらう活動をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告・運営推進会議への参加依頼・居宅支援事業所連絡会への参加を通じアドバイスを受けたり、新しい情報の収集に努めている。	事故報告・運営推進会議への参加依頼・居宅支援事業所連絡会への参加を通じアドバイスを受けたり、新しい情報の収集に努めている。	事故報告・会議参加を依頼している。居宅支援連絡会議に出席して、在宅の人達の情報を待っている。今年の地震災害の教訓から地震時は施設を一時避難所として利用したいとの話があり検討中。地域還元のための貢献を考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロへの取り組みを玄関のみではなく、各フロアに掲示し周知徹底を行っている。	身体拘束ゼロへの取り組みを玄関のみではなく、各フロアに掲示し周知徹底を行っている。	スピーチロックについてのマニュアルを掲示して常に意識するようにしている。1年に1回研修をしている。緊急時でやむを得ない場合は家族に説明をして同意を得ることになっている。気持の不安定の利用者には職員一人が寄り添い、見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作り周知をしている。また日々の様子を日報という形で報告をし、日々のスタッフの行動発言の振り返りの時間を作っている。	フロア会議を通じ、テーマを毎回決めて虐待防止のための研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議を通じ、研修の一環として勉強をしている。	全体会議を通じ、研修の一環として勉強をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用契約書と重要事項説明書を通じご家族への説明を行っている。またご納得いただいたことを確認するためにご捺印を頂いている。また改定があった際や解約時にもご説明を行いご捺印を頂いている。	契約時には利用契約書と重要事項説明書を通じご家族への説明を行っている。またご納得いただいたことを確認するためにご捺印を頂いている。また改定があった際や解約時にもご説明を行いご捺印を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(太陽)	ユニット名(虹)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年ご家族アンケートを行い、本社で一括管理をし、各ホームにご家族様からの意見をフィードバックし対応策等も掲示している。また事業所独自ではご面会アンケートを面会時にお渡しし、意見の収集をしている。	毎年ご家族アンケートを行い、本社で一括管理をし、各ホームにご家族様からの意見をフィードバックし対応策等も掲示している。また事業所独自ではご面会アンケートを面会時にお渡しし、意見の収集をしている。	入口にアンケート用紙があり、自由に書き、常時受け付けている。毎年家族アンケート調査を行い本社で管理して結果を各事業所に伝え、対応策を掲示している。職員の顔写真を掲示してほしいという要望に応じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年職員アンケートを実施し、意見の収集をしている。また年2回個別面談の機会を作り職員からの意見収集と問題解決に取り組んでいる。	毎年職員アンケートを実施し、意見の収集をしている。また年2回個別面談の機会を作り職員からの意見収集と問題解決に取り組んでいる。	年2回の個別面談でステップアップの研修の希望、勤務体系についての相談等その都度対応して希望に沿えるよう取り組んでいる。その他管理者、ユニットリーダーが毎日の勤務状況の報告を受ける時意見や相談の対応もしている。医療面での不安の相談が多い。行事計画、業務的な事の組み立ては職員主体で行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	最低、年2回は個別面談を行い、職員の意見や不満、問題点などが話せる場を作っている。また他ホームとの交流を通じ問題意識の共有や刺激になるような機会を作っている。	最低、年2回は個別面談を行い、職員の意見や不満、問題点などが話せる場を作っている。また他ホームとの交流を通じ問題意識の共有や刺激になるような機会を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	若手教育研修(ビジネスマナーなど)や介護福祉士勉強会・合同研修会(山梨愛の家5ホーム合同)などの機会を作り研修の機会を作っている。	若手教育研修(ビジネスマナーなど)や介護福祉士勉強会・合同研修会(山梨愛の家5ホーム合同)などの機会を作り研修の機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	居宅介護支援事業所連絡会への参加や、毎週木曜の地域交流活動へのスタッフの同行を通じ同業種との交流の機会としている。	居宅介護支援事業所連絡会への参加や、毎週木曜の地域交流活動へのスタッフの同行を通じ同業種との交流の機会としている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に入居審査を行い、その際に身体状況のアセスメントやご家族様への過去の生活歴の収集などを通じ、ご本人様の安心できる環境づくりに取り組んでいる。	入居前に入居審査を行い、その際に身体状況のアセスメントやご家族様への過去の生活歴の収集などを通じ、ご本人様の安心できる環境づくりに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご契約前の施設見学の際にご家族様の不安点などの収集を行い、ご契約時なるべくご家族様のご自宅で行わせて頂き、話しやすい環境でご家族様のご意見を聞けるような体制を作っている。	ご契約前の施設見学の際にご家族様の不安点などの収集を行い、ご契約時なるべくご家族様のご自宅で行わせて頂き、話しやすい環境でご家族様のご意見を聞けるような体制を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者が作成した介護計画を介護支援専門員がチェックをし、またそれを代表者がチェックする3段階のチェック方法をとる、その時の最善を検討している。	計画作成担当者が作成した介護計画を介護支援専門員がチェックをし、またそれを代表者がチェックする3段階のチェック方法をとる、その時の最善を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様と一緒に職員の業務も行うことで、ご入居者様へ自分の家という意識を持っていただくことや職員もやってあげるといった一方的な介護にならないように努めている。	ご入居者様ができることを見極め、ご入居者様に役割を与えることで職員とご入居者様の仕事の分担を行い共存するという意識を持って行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(太陽)	ユニット名(虹)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会の際には日頃の様子やお会いしていない期間の様子などをご説明させていただき、なるべくご本人様の変化と一緒に共有できるように努めている。また毎月各ご入居者様ごとにお便りを配信させていただき、様子や写真などを掲載させていただいている。また面会時間は夜間以外自由とさせていただきます。	ご家族様の面会の際には日頃の様子やお会いしていない期間の様子などをご説明させていただき、なるべくご本人様の変化と一緒に共有できるように努めている。また毎月各ご入居者様ごとにお便りを配信させていただき、様子や写真などを掲載させていただいている。また面会時間は夜間以外自由とさせていただきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居時にはクーラーと洗面台以外のものを全て持ちこんでいただいております。ご本人様の使い慣れた家具や環境が維持できるように努めています。また衣類等に関するものもなるべく新しいものではなくご本人様が着慣れたもの、またはご本人様と選んで買ったものを用意させていただきます。	ご入居時にはクーラーと洗面台以外のものを全て持ちこんでいただいております。ご本人様の使い慣れた家具や環境が維持できるように努めています。また衣類等に関するものもなるべく新しいものではなくご本人様が着慣れたもの、またはご本人様と選んで買ったものを用意させていただきます。	行き慣れた美容院に家族の協力で行っている。入居前に通っていた習字教室に月2回行く時送迎支援をしている。練習の成果を廊下に掲示している。友達が来たり、電話の対応で関係が持続するように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人様のプライベート空間は確保しておりますが、レクリエーションや食事作り・日常家事を通じご入居者様同士が接する環境を多く作っております。(例、食事作り・合同レクリエーションなど)	ご本人様のプライベート空間は確保しておりますが、レクリエーションや食事作り・日常家事を通じご入居者様同士が接する環境を多く作っております。(例、毎朝の清掃活動・食事作り・散歩など)		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時の支援(次の事業所探しや施設見学への同行)をさせていただき、退居後もご家族様の理解が取れることに関しては面会等を通じ、関係の維持に努めております。また、退居後の一ヶ月は通常通りご家族様へのお便りも配信させて頂きホームの様子などが分かるよう努めています。	退居時の支援(次の事業所探しや施設見学への同行)をさせていただき、退居後もご家族様の理解が取れることに関しては面会等を通じ、関係の維持に努めております。また、退居後の一ヶ月は通常通りご家族様へのお便りも配信させて頂きホームの様子などが分かるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月に一度のケアプラン更新時にはご本人様への意見収集を計画作成担当者が随時行っており、またアセスメントも取り直している。毎月一度のフロア会議を通じカンファレンスを行いご本人様の声にならない声の集約をしている。	3ヶ月に一度のケアプラン更新時にはご本人様への意見収集を計画作成担当者が随時行っており、またアセスメントも取り直している。毎月一度のフロア会議を通じカンファレンスを行いご本人様の声にならない声の集約をしている。	アセスメント表の本人、家族の意向を基本にして思いの把握に努めている。言葉に出来る利用者には意思がとれるが出来ない利用者には喜んだ時の表情や、常に口に出している事から思いをくみ取っている。子供が好きそうな利用者は幼稚園に連れて行きふれ合う時間をとるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご契約時にご本人様の個人情報の収集をご家族様より行い、ご本人様の生活環境などの情報収集を行っている。	ご契約時にご本人様の個人情報の収集をご家族様より行い、ご本人様の生活環境などの情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月一度のフロア会議時にカンファレンスを行うと共に、その時の優先順位の高いご入居者様に対してはケアの見直しを行っている。	毎月一度のフロア会議時にカンファレンスを行うと共に、その時の優先順位の高いご入居者様に対してはケアの見直しを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一度のフロア会議時にカンファレンスを行うと共に、その時の優先順位の高いご入居者様に対してはケアの見直しを行っている。	毎月一度のフロア会議時にカンファレンスを行うと共に、その時の優先順位の高いご入居者様に対してはケアの見直しを行っている。	月1回の会議時にカンファレンスをしている。病院へ入院して状態が変わった人や不安症状が強くなった人は必要に応じて計画を見直しをしている。計画作成時は現場の意見を参考にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各フロアごとに申し送りノートと受診ノートを介護記録以外に作っており、日常の細かい変化も情報が共有できケアに生かされるように取り組みをしている。	各フロアごとに申し送りノートと受診ノートを介護記録以外に作っており、日常の細かい変化も情報が共有できケアに生かされるように取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(太陽)	ユニット名(虹)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の要望に応じ、個別の外出支援や受診の介助等を行っている。	ご本人様の要望に応じ、個別の外出支援や受診の介助等を行っている。また個人の要望がある方に関しては市の主催している教室に通うなどの支援もしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きなれた美容院やお店などの継続ができるような支援を行っている。	市の行っている教室に通ったり、病院の行っている受診の際の巡回バスの利用をしている。行きなれた美容院の利用なども行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については規定を設けず、使い慣れた病院への受診の継続や、遠方でご家族様が受診介助が出来ないところに関しては往診医を利用し24時間365日の緊急対応が出来るようにしている。	受診については規定を設けず、使い慣れた病院への受診の継続や、遠方でご家族様が受診介助が出来ないところに関しては往診医を利用し24時間365日の緊急対応が出来るようにしている。	基本的には入居時のかかりつけ医としている。遠方などの家族は希望で365日対応出来る往診医を利用している。家族が対応する時は施設での様子2、3日分を知らせている。受診後は報告してもらい受診ノートに記入して情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週一度の訪問看護を利用し、医療面でのアドバイスを受けている。また訪問看護日以外の日にも電話相談等で連携に努めている。	毎週一度の訪問看護を利用し、医療面でのアドバイスを受けている。また訪問看護日以外の日にも電話相談等で連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎週木曜日の地域交流活動を通じ、病院のSWなどとの連携や情報交換をし関係作りをしている。また入院時にもSWを付け、Dr・Fa・Sw・ホームとのインフォームを通じ早期退院や医療面でのアプローチを受けている。	毎週木曜日の地域交流活動を通じ、病院のSWなどとの連携や情報交換をし関係作りをしている。また入院時にもSWを付け、Dr・Fa・Sw・ホームとのインフォームを通じ早期退院や医療面でのアプローチを受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約時に重度化した場合の対応について別紙でのご説明とご了承頂き、ご希望のご家族には他施設への入居申し込みを行っていただいている。またケアプランの更新時にご本人様の様態に応じ他施設への転院のアドバイスや援助を行っている。	ご契約時に重度化した場合の対応について別紙でのご説明とご了承頂き、ご希望のご家族には他施設への入居申し込みを行っていただいている。またケアプランの更新時にご本人様の様態に応じ他施設への転院のアドバイスや援助を行っている。	契約時に事業所の方針を説明している。重度化した場合は転院のアドバイスや援助をしている。ケースバイケースで看取りの希望があれば職員的意思を確かめ、往診医と家族の協力があり体制が整えれば対応している。過去看取りがあり反省をして今後には生かす取り組みをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応マニュアルを作り、緊急時の対応方法などを統一し指導している。(入社時に研修を行っている)その他、事故等についてもマニュアルを作ったり報告書を職員に提示し、事故の対応策等を上長と話し合いその共有を行っている。	救急対応マニュアルを作り、緊急時の対応方法などを統一し指導している。(入社時に研修を行っている)その他、事故等についてもマニュアルを作ったり報告書を職員に提示し、事故の対応策等を上長と話し合いその共有を行っている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上の防災訓練を行い、避難方法等の訓練を行っている。また消防計画を通じ、災害時のマニュアルを作っている。	年に2回以上の防災訓練を行い、避難方法等の訓練を行っている。また消防計画を通じ、災害時のマニュアルを作っている。	年2回の火災、地震対応の避難訓練を実施している。夜間の訓練は停電時の明かりの確保の課題が出てタッチセンサーの設置、懐中電灯を配置した。消防署の指導で機材の使い方の練習をしている。命を助けるための方法を常に念頭に置くことを徹底させている。	災害の避難訓練の実施状況を職員全員が情報共有する事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(太陽)	ユニット名(虹)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「ケアする姿勢」「ホームの掟」「クレド」というものを通じご本人様の尊厳の維持ができるよう資料の掲示と全スタッフへの配布をしている。	「ケアする姿勢」「ホームの掟」「クレド」というものを通じご本人様の尊厳の維持ができるよう資料の掲示と全スタッフへの配布をしている。	ケアする姿勢の7条とホームの掟4条を掲示し、携帯出来るクレドを通して、利用者への姿勢を振り返ることにしている。不適切な事があった場合はその場で話し合ったり、職員の熟知が必要な場合は会議で取り上げ話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや外出の際にはご入居者様の意思が反映できるよう3つほどの選択肢からご入居者様の意に沿ったものを行っている。またその他に関しても選択肢を付け、ご入居者様が選べる環境づくりに努めている。	レクリエーションや外出の際にはご入居者様の意思が反映できるよう3つほどの選択肢からご入居者様の意に沿ったものを行っている。またその他に関しても選択肢を付け、ご入居者様が選べる環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや外出の際にはご入居者様の意思が反映できるよう3つほどの選択肢からご入居者様の意に沿ったものをおこなっている。またその他に関しても選択肢を付け、ご入居者様が選べる環境づくりに努めている。	レクリエーションや外出の際にはご入居者様の意思が反映できるよう3つほどの選択肢からご入居者様の意に沿ったものをおこなっている。またその他に関しても選択肢を付け、ご入居者様が選べる環境づくりに努めている。		
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	着替え時には3つほどの選択肢の中からご本人様のご要望に応じた服装を選択させていただいたり、ご本人様のご要望に応じた身だしなみができるよう、衣類の買い物などの支援も行っている。	着替え時には3つほどの選択肢の中からご本人様のご要望に応じた服装を選択させていただいたり、ご本人様のご要望に応じた身だしなみができるよう、衣類の買い物などの支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者様の嗜好に応じたメニューの変更や、ご本人様の能力に応じた形態での食事の提供を行っている。また毎月数回ご入居者様と相談をしご希望に応じたフロア調理やおやつ作りを行っている。	ご入居者様の嗜好に応じたメニューの変更や、ご本人様の能力に応じた形態での食事の提供を行っている。また毎月数回ご入居者様と相談をしご希望に応じたフロア調理やおやつ作りを行っている。	全国共通の献立で月1回以上メニューを変えて楽しんでいる。希望で焼きそばやラーメンを作った。茶碗を拭いたり、洗ったり、食事の準備や後片付け等は出来る人が職員と一緒にしている。また、職員は介助しながら同じ食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	子会社としてグリーンフード株式会社という食事に特化した会社を設立し、管理栄養士が調節してメニューを考えている。	子会社としてグリーンフード株式会社という食事に特化した会社を設立し、管理栄養士が調節してメニューを考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアだけでなく、定期的うがいや口腔体操などを通じ、口腔内の健康の維持ができるような取り組みを行っている。	毎食後の口腔ケアだけでなく、定期的うがいや口腔体操などを通じ、口腔内の健康の維持ができるような取り組みを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ・リハビリパンツの使用は最終手段とし、なるべく自排泄ができるよう、時間やパターンの把握を通じ定期的なトイレ誘導やポータブルトイレの使用などを行っている。	オムツ・リハビリパンツの使用は最終手段とし、なるべく自排泄ができるよう、時間やパターンの把握を通じ定期的なトイレ誘導やポータブルトイレの使用などを行っている。	排泄を記録して定期誘導に取り組んでいる。日中は出来るだけ布パンツで過ごすようにしている。ポータブルトイレは部屋に置き、夜間だけ使用している。バスタオルをトイレの中に置きトイレ介助の時に使い、プライバシーに配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳の提供・きなこ牛乳・便秘予防体操・水分補給方法などの工夫を行っている。また必要に応じ、薬の調節も行っている。	毎朝の牛乳の提供・きなこ牛乳・便秘予防体操・水分補給方法などの工夫を行っている。また必要に応じ、薬の調節も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	主に午後の時間を入浴の時間とし、最低でも3日に1度の入浴が提供できるように支援している。	主に午後の時間を入浴の時間とし、最低でも2日に1度の入浴が提供できるように支援している。	週4回の午後入浴している。入浴が好きでない人には言葉かけ、誘い方を工夫して入ってもらっている。脱衣所には各自のスペースがあり、好みのシャンプーやリンス、色や香りを楽しむ入浴剤が置いてある。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(太陽)	ユニット名(虹)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間や起床時間を決めずご本人様の生活スタイルに合わせた睡眠を促進している。また夜間も必ずフロアに1名の職員を配置し、不眠のご入居者様に適した個別の対応を行っている。	消灯時間や起床時間を決めずご本人様の生活スタイルに合わせた睡眠を促進している。また夜間も必ずフロアに1名の職員を配置し、不眠のご入居者様に適した個別の対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の観覧や、受診ノートを各フロアごとに作り、状態や薬の把握が出来るよう情報共有をしている。	処方箋の観覧や、受診ノートを各フロアごとに作り、状態や薬の把握が出来るよう情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝の地域清掃活動やホーム備品の作成依頼、日常家事の役割分担を通じ、ご入居者様が生きがいを持って生活できるように支援している。	毎朝の地域清掃活動やホーム備品の作成依頼、日常家事の役割分担を通じ、ご入居者様が生きがいを持って生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎月最低一度は買い物以外に外出・外食の機会を作り、ご入居者様の希望に応じた外出の支援や必要に応じては個別外出の支援も行っている。	毎月最低一度は買い物以外に外出・外食の機会を作り、ご入居者様の希望に応じた外出の支援や必要に応じては個別外出の支援も行っている。	月1回外出、外食している。利用者の状態を考えて外出日を決めている。天気の良い日は日常的に散歩や食材の買い物に出かけている。その日に着て行く服を自分で選んでいる。外出先では地域の人達がさりげなく見守ってくれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者様のできる能力に応じ、個別に財布を用意し、買い物の際には支払いが出来るようにしている。また出納帳を個人ごとに作っている。	ご入居者様のできる能力に応じ、個別に財布を用意し、買い物の際には支払いが出来るようにしている。また出納帳を個人ごとに作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	基本的に電話や郵便については制限をしておらず自由に使えるようにしている。	基本的に電話や郵便については制限をしておらず自由に使えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに音が流れている環境やトイレ・居室等の位置が分かるような張り紙、季節に合わせたホーム環境(飾りや草花、畑農作物等)を作っている。	フロアに音が流れている環境やトイレ・居室等の位置が分かるような張り紙、季節に合わせたホーム環境(飾りや草花、畑農作物等)を作っている。	共有の居間が中央にあり、見守りやすい間取りになっている。居間のテーブルで利用者がお互いを気遣いながら過ごしている。廊下一面に利用者が描いた絵を飾り、玄関にはベンチがあり外出時の待ち合いや帰って来た時のひと休みに利用している。職員が作った作品も飾り居心地良く過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人様のご希望に応じた余暇時間活用のためのグッズをフロアに常におくことや席の配置等をしている。	ご本人様のご希望に応じた余暇時間活用のためのグッズをフロアに常におくことや席の配置等をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時にはクーラーと洗面台以外のものを全て持ちこんでいただいております。ご本人様の使い慣れた家具や環境が維持できるように努めている。また衣類等に関してもなるべく新しいものではなくご本人様が着慣れたもの、またはご本人様と選んで買ったものを用意させていただいております。	ご入居時にはクーラーと洗面台以外のものを全て持ちこんでいただいております。ご本人様の使い慣れた家具や環境が維持できるように努めている。また衣類等に関してもなるべく新しいものではなくご本人様が着慣れたもの、またはご本人様と選んで買ったものを用意させていただいております。	入居時に使い慣れた物「鏡台、本箱、ラジカセ」を持参している。スタンドハンガーにいくつものコートが掛けてあり、日常的に外出しているのが伺える。部屋一杯に趣味の物や本が入っており利用者自身の生活感が出ている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(太陽)	ユニット名(虹)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースは基本的に自由に使うことができるように支援している。	共有スペースは基本的に自由に使うことができるように支援している。		